

さぶちゃん 奮戦記 ②

菅原工務店創業物語

世界情勢は混沌とし、日本は四面楚歌の中にある。さらに北朝鮮は今年七月二十八日深夜、大陸間弾道ミサイル(ICBM)を発射、北海道・奥尻島の北西約150kmの日本の排他的経済水域内の日本海に落下しても、国民にそれほどの危機意識は薄い。

わが国は、すっかり平和に浸り切った中で次代を担う若者達に奮起を促すキャンペーンを企画している。その一環として地方創生、企業興しのスペシャリストを取材エリアから探し、その努力を紙面に掲載して参考にしてもらえればと、これまで数多くの立志伝中の経営者を取り上げてきた。今回、新たに白羽の矢を立てたのが、裸一貫で、大工見習いから修業を積み、血と汗と涙でおのれの人生を築き上げた「さぶちゃん」こと菅原三郎さんである。

取材協力と新聞掲載の了解を得るため、七月中旬に菅原さん担当の小社役員と訪問した。取材の目的を説明し、紙面掲載を申し入れ、「少しでも役立てば」と快く了解しても

らう。

「わたしも秋には古希となります。昔は人生五十年と言われましたが、こうして七十歳過ぎて自分の人生を振り返れる、いい機会だと思えます」

小社にとつて菅原工務店は、創業時からの有力スポンサーである。さぶちゃんが事業を興した最初の建物が自宅の敷地内に現存している。自宅と天崎タイムス社が近く、コマールや印刷物などはほとんど注文してもらえるお得意さん。担当役員からも「裸一貫で企業興しをしたお手本」と推薦があった。毎

若者に企業興し奮起を

年開催される菅原工務店の諸行事にも招待してもらい、経営者の菅原さんを「さぶちゃん」と愛称で親しみを呼んで呼び、お人柄は承知していた。

筆者より三歳若く、同じ世代に成長してきただけに自分の人生とも重ね合わせる事ができ、一人称で「さぶちゃん」のことは描けると思った。取材開始する前に「ぜひ、来てください」と、ふるかわ夏祭りの前日、八月二日夕べに開催されたバーベキュー大会に誘われ、同僚と行ってみた。

毎年招待を受けていたものの、いつも担当役員に出席してもらっていたが、今回はさぶちゃん

の自叙伝を描くことになり参加してみた。その日は古川の花火大会が開催され、花火も楽しめるとあって菅原工務店の駐車場は「夏の感謝祭・バーベキュー大会」で超満員だった。

夜の帳が下ろされ、夕暮れ迫るころ到着すると、バーベキューの会場はテーブルと椅子で埋め尽くされていた。「さぶちゃん」がテーブルに案内してくれ、菅原工務店の二代目となる順一社長以下スタッフが揃いのTシ

ャツで混雑するお客を誘導していた。浴衣の女性や家族連れなど数百人がバーベキューに舌鼓を打った。

さぶちゃんの周囲には同級生が陣取っていた。同社取引企業の来賓もいたが、大半は「さぶちゃんの家」を建てた顧客という。お客に対する感謝の気持ちも込めて「バーベキュー大会」でおもてなしをする、企業のお手本に感じ入った。

〈伊藤〉



盛況だった夏の感謝祭・バーベキュー大会